

令和7年度 第3回学校運営協議会 議事録

1. 日時： 令和8年2月17日（火） 午後1時15分から午後3時45分まで

2. 場所： 藤枝特別支援学校 多目的学習室

3. 目的：

- 今年度の学校経営についての評価（関係者評価）をいただく。
- 次年度の学校経営計画「目指す学校像」についての意見交換と承認。

4. 参加者：

(1) 学校運営協議会委員

委員 A、委員 B、委員 C、委員 D、委員 E、委員 F、委員 G（計7名）

(2) 本校職員

校長（鈴木ゆかり）、副校長（松本知栄子）、教頭（小林雅樹）、事務長（村松康代）、小学部主事（采女靖彦）、中学部主事（黒岩章子）、高等部主事（田中宏和）、肢体統括主任（二俣康明）、訪問主任（若松希美乃）、教務主任（鈴木裕）、地域連携課長（松崎克矢）、衛生管理者（小島喜久子）（計12名）

5. 内容

【開会】

副校長(松本)：本日は今年度のまとめと来年度の計画について審議をお願いします。

委員 A：皆さん、こんにちは。 年度末のまとめと、来年度の計画作りで大変お忙しい時期にお集まりいただき、ありがとうございます。 最近は政治の動きもいろいろあり、当初の計画を修正しながら進めるなど、我々の現場でもバタバタしております。 特に学校の先生方は、世の中から「働き方」への要求がかなり強くなってきていることもあり、大変な思いをされているのではないのでしょうか。 今日では1年間のまとめを報告していただきますので、委員の皆さんからもいろいろな御意見をいただき、来年度に向けて良い体制が作れればと思

っております。

校長（鈴木）：本日はありがとうございます。3学期が始まりましたが、本校ではインフルエンザB型が流行してしまい、先週から学級閉鎖や学部閉鎖の対応をしていました。今は少し落ち着いてきましたが、小学部などでまだ閉鎖しているクラスがあります。3学期は高等部の作業発表会があり、地域の方々もたくさん来てくださって、生徒の頑張りを見ていただく良い機会になりました。今年度は本当にいろいろなことに取り組んだ1年でした。Instagramの運用を始め、給食だけでなく活動の様子も発信してきました。また、地域と連携した防災についても、交流センターや市の方と相談を進め、福祉避難所としての歩を進めてきました。医療的ケアについても、人工呼吸器の管理を保護者から学校の看護師へ移行する取り組みを1年かけて進め、来週からは完全に学校側で管理できるようになります。さらに、AIを活用して個別の指導計画などを作成する県のモデル事業にも取り組みました。効率化だけでなく、多角的な視点で子供たちを捉えられるよう、試行錯誤しながら進めているところです。本日はこれらの振り返りを報告しますので、忌憚のない御意見ををお願いします。

① テーマ1：令和7年度 学校経営計画について（関係者評価を含む）

教務主任（鈴木）：

【今年度の自己評価報告・職員評価の結果】

- **安全・安心：**毎月の訓練で教職員の役割が明確になりました。特に保護者に記入していただいた「1日の生活シート」により、医療的ケア児の24時間を想定した安全確保が可能になったのは大きな成果です。課題としては、人権意識の向上において、一部で言葉遣いがきつい等の指摘もあり、さらなる徹底が必要です。
- **授業：**個別の指導計画に基づいた実態把握が進み、ICT機器の活用頻度も上がりました。今後は、研究授業だけでなく日常的な授業でもこまめに評価を行っていくことが課題です。また、短縮週間の活用方法について教職員間での共通理解を深める必要があります。
- **連携：**キャリア教育の手引きの活用が進み、Instagramやホームページの刷新で学校の魅力が伝わりやすくなりました。地域ボランティアの拡大や、「見る人が何を知りたいか」を意識した発信が今後の目標です。
- **職場環境：**アンケートでは約13%の教職員が働きにくさを感じてお

り、会議の精査やコミュニケーション不足の解消が急務となっています。

【保護者アンケートの結果】

回答数 221 名、全項目で 95%を超える高い肯定率を得ることができました。先生方の明るい挨拶や子供に寄り添う姿勢への感謝が多い一方、駐車場の不足や避難経路となる道路の整備を求める声もありました。

② 質疑応答と意見交換

委員 E: いつもありがとうございます。感想になってしまいますが、医療的ケアの情報を細かく集めて対応してくださるのは、預ける側として本当にありがたいです。また、人権についても、小学部の頃から子供を「さん付け」で呼んでくださっているのを見て、組織としての徹底ぶりに驚きました。ICTの活用も、知的障害のある子たちのギャップを埋めるのに役立っていると思います。ただ、これだけ多くのことに取り組んでいると、先生方のワークライフバランスは大丈夫なのかと、少し心配にもなります。

委員 D: 非常に高い数値での達成、素晴らしいですね。先生方の肌感覚として、何がこの結果につながったのでしょうか。また、次年度の目標設定についても伺いたいです。Instagramについては、先生方の働き方や生徒さんの良い表情（プライバシーに配慮しつつ）をもっと発信しても良いかもしれません。

学校側回答（校長・副校長）: 働き方については、ログで勤務時間を管理し、19時以降は申し出制にするなど、業務の偏りをなくす工夫をしています。月45時間を超える残業は激減し、現在はほぼゼロに近い状態です。各学部でも、ICTを活用した業務分担や、チームでの「同僚性」を高めることで負担を分散しています。AIを使って会議の文字起こしや資料作成を効率化する試みも始めています。来年度の目標は、数値だけでなく「1年後に子供や教師がどうなっているか」という「状態」に主眼を置いたものに変えていきたいと考えています。

委員 C: 評価 A と B の差をどう分析していますか。また、ヒヤリハットの共有についても効率化を目指してほしいと思います。人権教育において子供たちの「自己理解・他者理解」を深める授業の具体例も教えてください。

小学部主事: 小学部では、自分の得意・不得意を知り、助けが必要な時に

「支援を選択して伝える」練習をしています。友達との遊びを通じて、お互いの感覚の違いを学んでいます。

中学部主事： 中学部では、生徒会活動などを通じて「人の役に立つ経験」をさせ、自己肯定感を高める指導を意識しています。

高等部主事： 高等部では、社会に出る準備として、自分の「好き」が必ずしも相手の「好き」ではないこと、相手の嫌がることを理解するなど、道徳的な側面も含めて指導しています。

肢体統括、訪問教育主任： 体が重度で動かせない子でも、視線の動きなどで「これが好き」「やりたい」という気持ちを表現しています。教師がそれを見つけて応えることで、自分と他人の意思疎通を意識させています。

委員 A： 私の施設でも働き方改革には3年かかりました。指導者が厳しく管理し、お互いの家庭事情をフォローし合える関係性ができて初めて、笑顔で「お先に失礼します」と言えるようになります。また、うちは「ヒヤリハット」だけでなく「ニコリホット」という取り組みをしています。子供の小さな良さや表情の変化を見つけて褒めます。これを始めてから施設全体が明るくなりました。言葉が出ない子の小さなサインを見逃さない配慮が、教育の最大ポイントだと思います。

委員 F： 高い達成率に驚いています。一点、短縮週間の目的について認識の差があったとのことですが、これはどういうことでしょうか。

学校側： 本来は教員同士で授業作りを深める時間にしたかったのですが、多忙感から個人の業務時間に充ててしまうケースが多かったためです。

委員 G： 保護者の評価が高いのは素晴らしいですが、教員の自己評価で「B」が増えているのが気になります。BはAにもCにもなり得る数値です。平均点で見ると、課題が見えてくるはずですが。「できているから終わり」ではなく、AIも活用してより深く分析し、来年度の課題に繋げてください。

委員 B： 防災の面で一つ。避難所の運営訓練に参加しましたが、排泄物の処理は大きな課題です。1日一人2キロ出ると言われます。福祉避難所として、その処理場所や方法も具体的に検討しておく必要があると感じました。

学校側： 貴重な御指摘ありがとうございます。今後の運営計画の中で具体的に検討していきます。

③ 休憩・関係者評価の記入

④ テーマ 2：令和 8 年度 学校経営計画「目指す学校像」について

【校長による次年度計画の提案】

委員 A：それではテーマの 2 つ目、来年度の学校経営計画について、鈴木校長先生から説明をお願いします。

鈴木校長：資料の 13 ページを御覧ください。来年度も『ひびき合い、つくり合う』という目標は継続していきます。これらを考えるにあたって、今回は児童生徒、保護者、職員、地域の方みんなで作りに上げる学校を目指し、アンケート結果を AI で分析してみました。

児童生徒は『働く人になりたい』『笑顔で挨拶する学校にしたい』といった意欲を持っており、保護者の方は一番に『自立』、次に『人との関わり』を求めています。一方で職員は『人とつながる力』を最も重視しているという結果が出ました。これらはいずれも本校の教育目標と一致しています。

また、本校の強みを保護者に聞いたところ、『一人一人に寄り添う手厚い支援』や『教職員の専門的な関わり』という声を多くいただきました。職員も、大規模校ならではの『マンパワー』や『専門性の多様さ』を強みと感じています。

こうした結果を受け、来年度のサブテーマを『つなぎ、つながる藤枝特支』としました。これまでの『安全・安心』『授業』『連携』に加え、新たに『チーム』という柱を立てます。AI などのツールを使いつつも、最終的には教職員同士の対話（熟議）を大切にし、認め合い、支え合える働きやすい環境を作ることで、教育の質をさらに高めていきたいと考えています。

【委員による意見交換】

委員 D：全般的にコミュニケーションを円滑にしようとする努力が伝わってきました。次年度は AI をいかに活用し、浮いた時間をいかに『熟議』に充てるかが鍵ですね。アンケートには表れてこない、保護者や職員の『生きた声』を拾い上げる実践を期待しています。

委員 C：アンケートを元に目標を決めるプロセスが素晴らしいですね。本校でも取り入れていきたいと思いました。

委員 B：地域との関わりについては、来年度も交流センターでの行事や、自治会の回覧板でのチラシ配布などを通じて、一人でも多くの方にこの学校を知ってもらえるよう協力していきたいです。

委員 E：アンケートで保護者が『身辺自立』を、先生方が『人とつながる力』

を重視しているという違いは非常に興味深いです。確かに親としては日々の動作の自立を願いますが、社会で助け合って生きていくためには、先生方の言う『つながる力』が何より大切だと改めて感じました。先生方が子供たちの成長を喜んでくださるのは本当にありがたいですが、無理をして体を壊さないよう、持続可能な形で取り組んでいただければと思います。

委員 G：生産性を高めるために AI を使うのは良いことですが、新しいことを始めるとどうしても仕事が増えてしまいます。何かを増やすなら、同時に『何をやるか』を判断することが大事です。頻度を減らす、あるいは必要性を再検証するなどして時間を生み出し、コミュニケーションの質を高めていってください。

委員 F：『つなぐ』『連携』というのは言葉で言うほど簡単ではありませんが、一歩踏み出し、継続していくことが大切です。先生方が無理のない範囲で、外へと発信し続けていくことを応援しています。

委員 A：私は、子供が学校から帰ってきた時にニコニコと幸せそうな顔をしているか、それが一番だと思っています。子供の幸せを通じて、お父さんやお母さんにも『生きる幸せ』を感じてもらえるような、そんな教育を期待しています。

【閉会】

副校長（松本）：来年度は運営協議会を年 4 回に増やし、そのうち 1 回は『ふじとくまつり』を実際に見ていただく機会にする予定です。

校長（鈴木）：本日は貴重なご意見をありがとうございました。先生たちが疲れてしまわないよう、改善できるところは改善し、やめるべきことはやめる勇気を持って、地域や行政とますます繋がっていきたいと思います。

副校長（松本）：以上で第 3 回学校運営協議会を閉会します。ありがとうございました。

